

6月定例山行

6月8日(日) 高尾山～呉娑々宇山
～甲越峠～岩滝山

参加者 15名

CL 三浦美雄子 SL 三重成彦、
林、鬼武、円山、松尾、滝、吉岡俊
安永、上別祖、中島康、中島美、
佐々木敏、竹野弘、三重典子、

コースタイム

城ヶ丘バス停 8:30→城ヶ丘公園 8:50→

岩屋観音 10:10→バクチ岩 11:30(昼食) 12:15→甲越峠 14:10→岩滝神社 15:25



○

暑い時期の縦走のため参加者があるか心配でしたが15名の参加でした。岩屋観音からの素晴らしい景色を眺めながら又高尾山での岩場は良いトレーニングになりました。バクチ岩まで行き呉娑々宇の頂上は希望者が無いのでやめてバクチ岩で昼食にする。甲越峠で2名下山されました。最後の急登を登り岩滝山へ、そして神社に下り皆さん暑い中疲れた様子も無くよく歩かれました。

(記 三浦美雄子)

○

高尾山～呉娑々宇山甲越峠～岩滝山

6月の暑い登山、しかもかなりの急登を含む長時間の歩行。歩きとおせるかどうか少し心配だった。何しろ昨年12月1月の入院以来今日の山行で3回目、トレーニングらしいトレーニングはしていない。朝40分ばかりの林での散歩ぐ

らい、足が痛くなったら甲越峠でリタイヤし、バスで帰ろうと覚悟を決めて参加した。城ヶ丘バス停から団地の中を通り公園でトイレ、準備運動のストレッチを済ませ出発。暑い日ざしが上から照らす。花崗岩の風化した滑りやすい砂の道を歩くと汗が噴出す。ようやく岩谷観音の跡に着く。これからは多少の岩登りである。全員無事クリアーして岩の上に立つと広島市街が一望できる。少しだが涼しい風が吹いてきて気持ちがよかった。これからは高尾山本峰に向かって再び岩を登る。以前ついていたロープが切れてなくなっていた。その後につけたらしいトラロープは工事などに使う丈夫なものではなく、ポリプロ製の荷造り用のものらしくちぎれてそばに置いてあった。こんなものに頼って登っていたら大怪我する。ないほうが安心して登れると思った。呉娑々宇山につながる長い尾根を歩く。赤いヤマ

ツツジやガクウツギの白い花、ネジキのかわいい釣鐘状の花などを楽しみながら先を急ぐ。呉婆々宇山の尾根に取り付く道には足元にサンヨウアオイの葉がいくつか目についた。ギフチョウの食草と聞いている。そういえば、春にこの付近で花見をしたときに数名の捕虫網を持った人であった。ギフチョウを採集に来たと言っていた。今のこの時期はアゲハ蝶が多い。モンキアゲハをいくつか見た。野鳥もウグイスはもちろんホトトギスが盛んに鳴いていた。繁殖期なんだろうか。今日は、野鳥博士がいないのでよくわからない。2～3種類の鳥の声を聞いたが知識のないわれわれにはさっぱりわからない。わかるのはウグイスとホトトギスだけだった。バクチ岩で昼食、頂上へは向かわず岩滝山方面に向かってひたすら下る。いくつものアップダウンの繰り返しそのたびに出てくる階段道、次第に足がだるく重くなる。甲越峠まであと2 kmの地点から途中で休憩を入れておよそ50分かかった。ここで2名が用事があるということで分かれた。大休憩のあとよいよ最後の岩滝山までの道である。登り始めは横にロープの張ってあるばか急登。道路が切り通しになったため尾根道が切断されいったん車道に出て再び登り返さなければならぬためにこのようになったのだろう。後はわりとゆるやかな道を岩滝神社へ。立派なお宮なので驚いた。今日の山行が無事に終わったこと、

歩きとおせたことを感謝しておまいをした。海田駅にて解散、それぞれ家路に着いた。

(記 松尾幸男)

○

長丁場も楽しいぞ！！

五月号の山行案内に”歩き応えのある山行です“、水を多めにとの呼びかけに、私は今ごろの晴れは暑くなるから小人数の山行かも、と思っていましたところ、三々五々と集合場所に集まってきた人々の顔ぶれは会のベテラン揃い、山行には天候長丁場は問題ないとの様子で、山へ一途の心意気を感じさせられました。

第一行程は登山口よりバクチ岩まで登り昼食との事です。

登り一辺倒の山路にあつて岩場もありちょっとしたスリルも味わえました。見晴らしの良いバクチ岩は照り返しがきつく木立の中に避けました。

第二行程は笹ヶ峠、茶臼山を経て甲越峠まで木道階段の多い登り降りの道を疲労困ぱいで、着いた峠の道端に倒れそうでした。

第三行程は甲越峠より岩滝神社までですが取り付きが急坂の為最後の力を振り絞る始末です、岩滝神社の上の見晴台の眺めの素晴らしさは山行最後の締めを飾ってくれました。

がまんの長丁場は皆さんの夏山計画の体験に？

(記 佐々木敏)